

情報科教師教育のための Wiki の活用

—— プレゼンテーションを重視した災害支援と模擬授業を例に ——

右島 綾香*・本田 敏明**

(2012年9月15日受理)

Using a Wiki in Teacher Training: Improving Teaching Ability through Presentations

Ayaka MIGISHIMA and Toshiaki HONDA

キーワード: Wiki, 情報科, プレゼンテーション,

プレゼンテーション技法を育成する場合、PowerPoint をツールとして利用するのが普通である。本研究では Wiki をツールとして利用して実践を行い、その有効性について検証を行った。本研究で対象にした授業は、教科「情報」の専門科目の「コンピュータ・プレゼンテーション技法」と「情報科教育法 I」である。

Wiki を利用する利点としては、HTML 言語の知識がなくてもプラグインやリンク等の Wiki が持っている機能を利用すればかなり高度なウェブページの作成が可能になり、一般的なウェブページを作成するよりも容易にプレゼンテーションツールとしてのウェブページを作成することができることである。また、時系列で情報が流れていくブログや SNS に比べて Wiki はメンバー間のコミュニケーションの活性化や新しいアイデアの創出に向き、知識を共有していく場としては Wiki の方が適しているといえるからである。

二例の授業実践の分析から、Wiki というツールは情報をまとめ、発信していくという点でとても有効なツールであることが明らかになり、教師教育にも有効な活用法であることが実証できた。

はじめに

現在、情報化が進み様々な情報が簡単に手に入るようになった。我々の生活の中でも情報ツール活用能力は必須となりつつある。また、それは学校教育現場でも同様である。そしてその手に入った情報をどのように処理してまとめ、発信していくかがより重要になってきている。

茨城大学教育学部では教科「情報」の専門科目の中に「コンピュータ・プレゼンテーション技法」と「情報科教育法 I」をおいており、「コンピュータ・プレゼンテーション技法」は隔年後期、「情報科教育法 I」は隔年前期に開講し、それぞれ 2 単位の授業となっている。学生達にコンピュータ・

*茨城大学教育学部情報文化課程

**茨城大学教育学部

プレゼンテーション技法を育成する場合、PowerPoint をツールとして利用するのが普通である。

しかし今回はそうではなく Wiki をツールとして利用して実践を行い、その有効性について検証を行った。

第1章 プレゼンテーションツールとしての Wiki

1 Wiki の説明

まず、本実践で使用した Wiki とはどのようなものなのか。IT 用語辞典 e-Words による定義を見てみる。

Web ブラウザから簡単に Web ページの発行・編集などが行える、Web コンテンツマネジメントシステム(CMS)の一つ。Web サーバにインストールして Web ブラウザから利用する。複数人が共同で Web サイトを構築していく利用法を想定しており、閲覧者が簡単にページを修正したり、新しいページを追加したりできるようになっている。編集者をパスワードなどで制限したり、編集できないよう凍結したりすることもできる。HTML の知識がなくてもリストやリンクを簡単に作成できるように、簡易な整形書式が定められている。柔軟性が高く、手軽に始められて操作が簡単なことから、メモ帳代わりに使ったり、特定のテーマのまとめサイト(まとめ Wiki)の制作に利用されることが多い。Wiki を利用したインターネット上の Web サイトで最も有名なものに百科事典の Wikipedia がある¹⁾。

多くの Wiki に共通する特徴は以下の通りである。

- ネットワーク上のどこからでも、いつでも、誰でも、文書を書き換えて保存することができる。
- 文書を書き換えに最低限必要なツールはウェブブラウザのみである。
- Wiki 特有の文書マークアップは HTML などと比べて簡潔なので覚えやすい。
- 同じ Wiki 内の文書間にリンクが張りやすくなっており、個々の文書が高度に連携した文書群を作成しやすい。
- 大抵は、変更の事前許可を必要とせず、Wiki のあるサーバに接続できる人に開かれている。実際、ユーザアカウントの登録を必要としないところも多い²⁾。

なお授業での Wiki の活用例としては、木村勤氏と本田が iGoogle と FFP 及び Wiki を活用した公立小学校 4 年生 14 名を対象に社会科単元「わたしたちの茨城県」の授業を行ったものがある。この実践で「Wiki では個人ページを設定するとともにグループページも作成し、各自が互いの調べた内容を確認し合ったり互いに意見を出し合ったりしながら、グループとしての考えもまとめられるようにした」とある^{3) 4)}。本研究は、教師教育の視点からその流れを受け継いだものである。

2 操作の簡便性

Wiki をプレゼンテーションツールとして利用する理由の一つめとして、操作の簡便性が挙げられ

る。Wiki はウェブページ機能を利用したプレゼンテーションが中心である。同じようなウェブページ機能を持つ一般的なウェブページの作成では高度な HTML 言語を学ぶか (図 1 参照)、反対に機能は劣るけれども簡単なワープロ等を使って行うか (図 2 参照) のどちらかになる。本研究のねらいは HTML 言語の習得ということではなく、あくまでプレゼンテーション能力の育成である。HTML 言語の知識がなくてもプラグインやリンク等の Wiki が持っている機能を利用すればかなり高度なウェブページの作成が可能になり、一般的なウェブページを作成するよりも容易に、プレゼンテーションツールとしてのウェブページを作成することができる (図 3 参照)。

```

Wiki.html - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<html>
<head>
<title>Wikiについてのホームページ</title>
</head>
<body bgcolor="#0060ff">
<center>
<h1>Wikiについてのホームページ</h1></center>
<hr>
<p>
<h3>「Wikiについてのホームページ」へようこそ！</h3>
このページは<b>Wiki</b>についてのページです。
Wikiとはどういうものか説明していこうと思います。<br>
<h4>Wikiについて詳しくなって、利用できるようにしましょう！</h4>
<hr align=center size=10 width=420 color="#20ff00">
<center><marquee width=300 bgcolor="#ffffff">
Wikiについてのホームページへようこそ！！
</marquee></center>
</body>
</html>
    
```

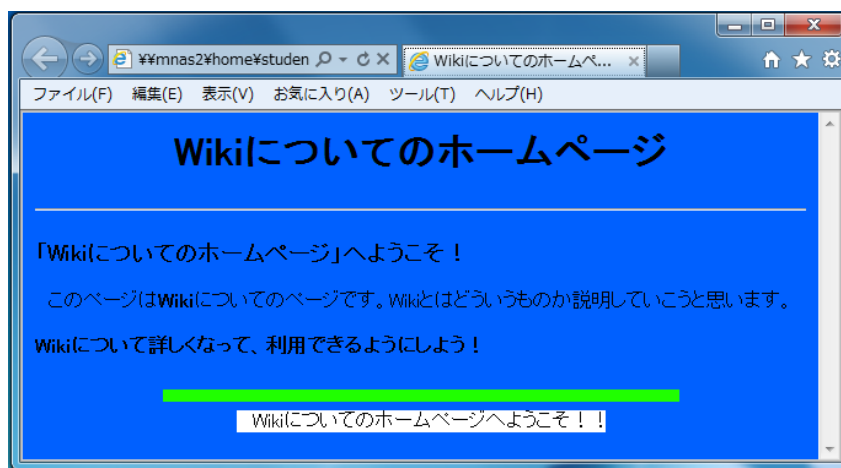


図 1 HTML 言語を用いて作成したウェブページ
(上) HTML 言語 (下) ウェブページ

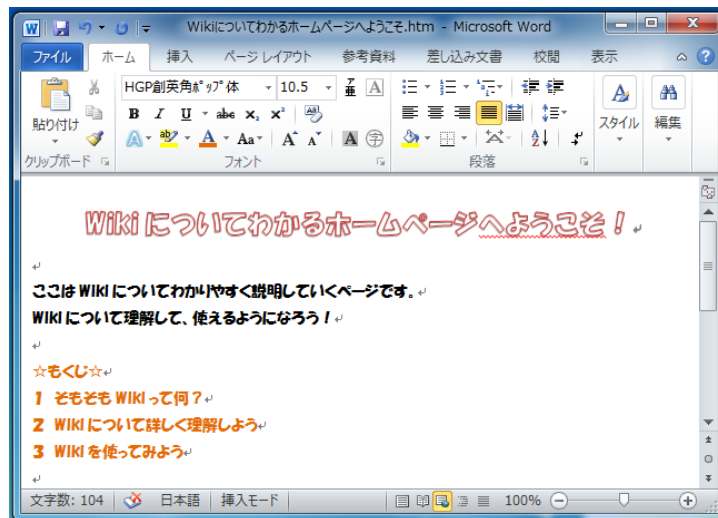


図2 Word を用いて作成したウェブページ

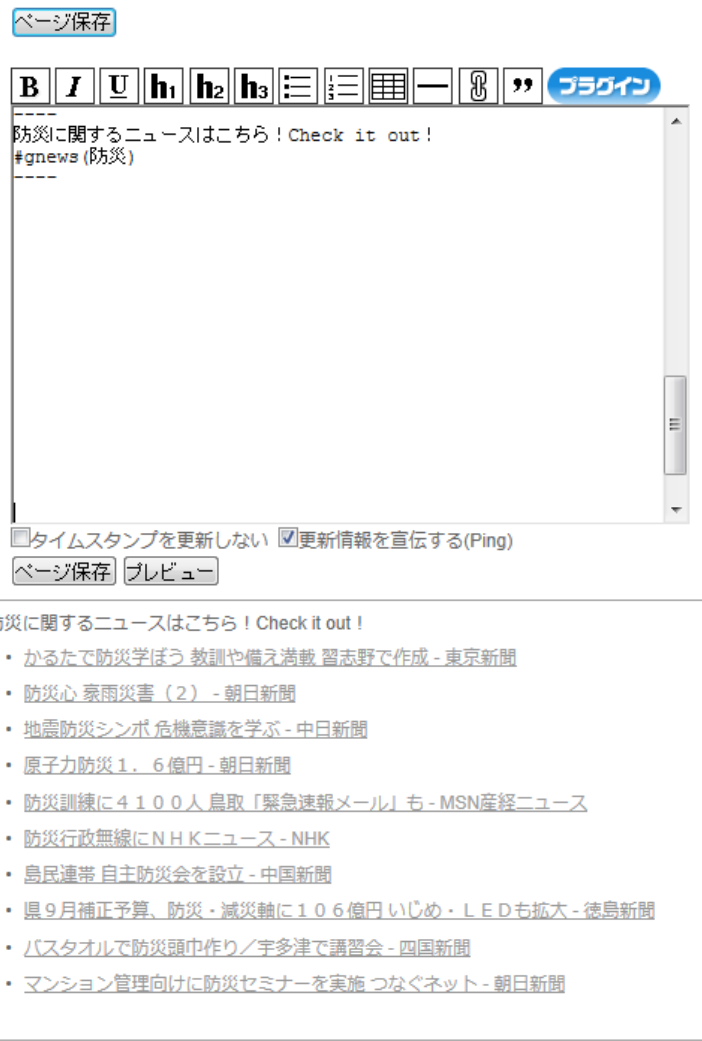


図3 Wiki のプラグインの例

(上)「#gnews(防災)」と入力 (下) 防災に関するニュースが Wiki に表示される

3 コミュニケーションツールとしての優位性

Wiki をプレゼンテーションツールとして利用する理由の二つめとしては、コミュニケーションツールとしての優位性が挙げられる。Wiki は一方向の情報発信ではなく、あくまでコミュニケーションを前提としたツールである。プレゼンテーション能力の育成に PowerPoint のような一方向のものではなく、Wiki のような双方向の情報流通の要素を入れれば、より複雑で変化に富んだ能力を育成することができる。と考える。

また、本実践で他のソーシャルメディアではなく Wiki を選んだ理由はなぜか。

まず Wiki とブログを比較する。ブログとは個人や数人のグループで運営され、日々更新される日記的な Web サイトの総称である。内容としては時事ニュースや専門的トピックスに関して自らの専門や立場に根ざした分析や意見を表明したり、他のサイトの著者と議論したりする形式が多く、従来からある単なる日記サイト(著者の行動記録や身辺雑記)とは区別されることが多い⁵⁾。

Wiki は Wikipedia に代表される通り内容志向で読むのが中心であるのに対し、ブログはそれよりも人間志向で書くのが中心となっている(図4参照)。

次に Wiki と SNS を比較する。SNS とは、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイトのことである。会員制のサービスで、友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する。人のつながりを重視して「既存の参加者からの招待がないと参加できない」というシステムになっているサービスが多いが、最近では誰も自由に登録できるサービスも増えている⁶⁾。SNS は Wiki やブログよりも人間志向で読み書き両方のバランスが取れているソーシャルメディアである。

フロー型と呼ばれる時系列で情報が流れていくブログや SNS は、メンバー間のコミュニケーションの活性化や、新しいアイデアの創出に向き、一方で知識を共有していく場としてはストック型と呼ばれる Wiki のほうが適しているといえる。

本実践ではプレゼンテーションした知識の共有を重視するため、Wiki というツールを選択した。

ツール	メリット
ブログ	ユーザー同士のコミュニケーション。自身の知見と第三者の知見を交流させて、イノベーションを生み出すのに適している
SNS	“知り合いの知り合い”へのアプローチ障壁を下げ、ユーザー同士のコミュニケーションを活性化させるのに適している
Wiki	ある目的に沿ってコミュニケーションさせて、特定のナレッジを構築するのに適している

表1 ブログ・SNS・Wiki のメリット比較⁷⁾

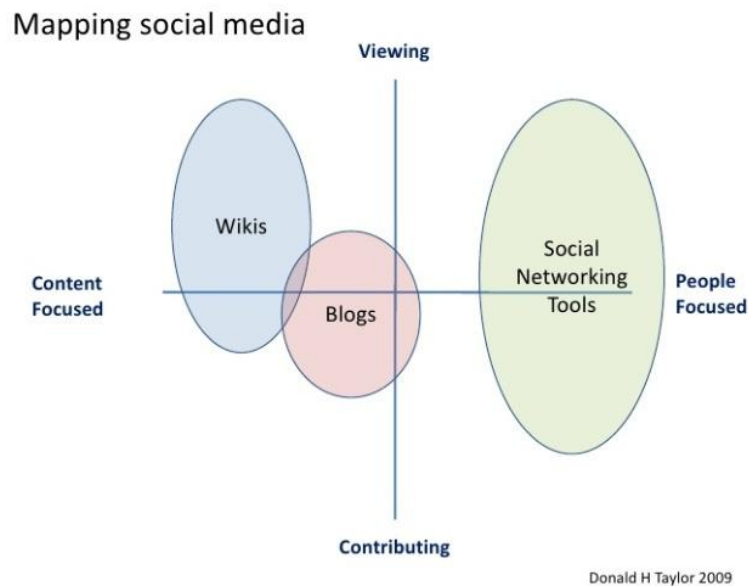


図4 ソーシャルメディアの関係図⁸⁾

今回の研究では、本田が担当した教科「情報」の専門科目の「コンピュータ・プレゼンテーション技法」(平成23年度前期)と「情報科教育法I」(平成24年度後期)の二つの授業を研究対象とした。まず「コンピュータ・プレゼンテーション技法」について述べていく。ちなみに「コンピュータ・プレゼンテーション技法」の実践については、日本情報科教育学会第5回全国大会で発表を行った。

第2章 「コンピュータ・プレゼンテーション技法」実践の概要

1 「コンピュータ・プレゼンテーション技法」のシラバス

まず「コンピュータ・プレゼンテーション技法」のシラバスについて説明する。

本実践の概要は、「コンピュータを使ったプレゼンテーションの方法について実習を含めて習得する。パワーポイント等のすでに知れ渡ったアプリケーションソフトの単なる操作法にとどまらず、最近注目されている Web2.0 のツールを理解するとともに、それらの操作法を通してプレゼンテーションの利用法を深く理解することを目指す」ということである。

到達目標は、「情報の効果的な発信＝プレゼンテーションについて、どのようなツールをどのような場面でどのように利用すれば効果的に行うことができるのかを実践的技法を学びつつ理解でき、実践できること」である。

2 実践過程

本授業の授業計画は以下のようになっている。

- 1) 情報の授受とは
- 2) 情報の発信＝プレゼンテーションについて
- 3) コンピュータ・プレゼンテーションの特徴について

- 4) Web2.0 の特徴と代表的なツールについて
- 5) BBS とは何か
- 6) BBS の特徴
- 7) BBS の分析について
- 8) BBS の教育利用について
- 9) Wiki とは何か
- 10) Wiki の特徴
- 11) Wiki のプラグインについて
- 12) Wiki の共同作成について
- 13) Wiki の教育利用について
- 14) 作成したオブジェクトの相互評価
- 15) まとめ

今回は、この中の 9 回目から 13 回目までの Wiki に関する授業の部分を研究対象としている。

第 3 章 Wiki「災害時の危機管理と人材育成」作成ページの分析

1 各個人の作成ページ

本実践の Wiki のテーマは「災害時の危機管理と人材育成」である。



図 5 Wiki「rosecastle@ウィキ」トップページ

まず、受講生 10 名各個人がまとめた Wiki の個人ページを分析した。その際以下のような表を作成した。

I	自ら作成したもの	(1) 文章	(ア) 読者とのコミュニケーションを意識した文章	15
			(イ) リンク先の説明	76
			(ウ) 災害時の危機管理や人材育成に関する文章	52
		(2) 静止画		0
		(3) 動画		0
II	引用	(1) 文章		0
		(2) 静止画		4
		(3) 動画		14
III	リンク	(1) 国・地方	(ア) 国のサイト	24
			(イ) 県のサイト	8
			(ウ) 市町村のサイト	9
			(エ) その他の公共団体	3
			(オ) 講習会	5
		(2) 民間	(ア) 民間のニュースサイト	41
			(イ) 民間のサイト	43

表 2 Wiki 「rosecastle@ウィキ」個人ページ内容分析

Wiki の個人ページは大きく「自ら作成したもの」、「引用」、「リンク」の三つに分けられた。そこからさらに細分化して、自ら作成したものは「文章」、「静止画」、「動画」、引用は「文章」、「静止画」、「動画」、リンクは「国・地方」、「民間」に分けられた。自ら作成したものの文章はさらに分けられ「読者とのコミュニケーションを重視した文章」、「リンク先の説明」、「災害時の危機管理や人材育成に関する文章」となり、リンクの国・地方も「国のサイト」、「県のサイト」、「市町村のサイト」、「その他の公共団体」、「講演会」に分けられ、民間も「民間のニュースサイト」と「民間のサイト」に分けられた。

分析した結果、自ら作成した静止画や動画は一切なく、静止画や動画は引用したものに限られることが分かった。また、引用した文章はひとつもなかった。リンクについては国・地方と民間では民間のサイトが多く、国・地方では国のサイトが最も多いことが分かった。

2 Wiki ページ全体の関係とフォーラムページ



図 6 Wiki 「rosecastle@ウィキ」災害時の危機管理と人材育成」フォーラムページ

図7のように、まずトップページから各個人のページへと行き、その各個人のページから重要だと思ふものをフォーラムページに各個人が書きこむ仕組みとなっている。
外部のページに有益な情報がある場合はそちらにも適宜リンクできるようになっている。



図7 Wiki「rosecastle@ウィキ」ページ全体の関係

I	自ら作成したもの	(1)文章	16
		(2)静止画	0
		(3)動画	0
II	引用	(1)文章	0
		(2)静止画	0
		(3)動画	0
III	リンク	(1)国・地方	3
		(2)講習会	0
		(3)民間のニュースサイト	8
		(4)民間のサイト	7

表3 Wiki「rosecastle@ウィキ」フォーラムページ分析

各個人のページと同じように「自ら作成したもの」、「引用」、「リンク」の三つに分けられた。自ら作成したものは個人ページと同じく文章のみだった。しかし引用は個人ページとは異なり一つもなかった。またリンクでは、国と地方・民間のニュースサイト・民間のサイトはあったが、講習会はなかった。

第4章 「情報科教育法 I」実践の概要

1 「情報科教育法 I」のシラバス

「情報科教育法 I」は、前期2単位の授業である。シラバスの概要としては、「共通教科「情報」設置の趣旨・位置づけ・目標・科目構成について学習指導要領をもとに理解し、実際の教材研究や授業計画の進め方を実践的に学ぶ」ということで、到達目標としては「高校の共通教科の中での教科「情報」の特徴を理解できる。また、教科「情報」の教科内容を理解し、その基本的な授業計画を立て、実際の指導ができるようにする」となっている。

2 実践過程

本授業の授業計画は次のようになっている。

- 1) 共通教科「情報」設置の趣旨・位置づけ・目標・科目構成について(学習指導要領の検討)
- 2) 共通教科「情報」と高等学校の他教科との関係
- 3) 中学校技術家庭科との関係
- 4) 専門教科「情報」との関係
- 5)～8) 科目「社会と情報」「情報の科学」の内容について
- 9)～13) 指導計画書の作成について
- 14) 授業計画・学生発表
- 15) まとめ

この中で9回目に指導案を作成し、模擬授業を行った。10～13回目にWikiを用いた授業を行なわれており、その部分を研究対象とした。

第5章 Wiki「roseburg@ウィキ」作成ページの分析

「roseburg@ウィキ」の構造としては、トップページがフォーラムページになっており、そこから各個人ページへと飛ぶようになっている。各個人ページには、それぞれの授業指導案と情報科教育法 I の授業の感想が置いてある。また、各個人ページから外部ページへのリンクも張っており、それぞれが見せたい外部ページへも行くことができるようになっている。



図8 Wiki「roseburg@ウィキ」個人ページ



図9 Wiki「roseburg@ウィキ」模擬授業フォーラムページ



メニュー

- ▶ [トップページ](#)
- ▶ [プラグイン紹介](#)
- ▶ [まとめサイト作成支援ツール](#)
- ▶ [メニュー](#)

リンク

- ▶ [@wiki](#)
- ▶ [@wikiご利用ガイド](#)

情報科教育法|感想

感想

講義中心になってしまったため、活動を増やしていけるような方法をとるとよい。また、意見を聞きながら、PPTの手書き入力を利用しながら進めたため、双方向的なスライドショーをすることが出来たのではないかと考える。それを、電子黒板を利用し、様々な意見を並べとめていければ、授業もより深いものになる。twitterなどの検索で調べる際には、必ず書いた本人のユーザー名を共に記録することが大事であるため、まとめの際に、そのような指示があったほうが良かった。説明はもう少しわかりやすく丁寧にするべきであろう。また実際に例を上げてやる方法も考えられる。またまとめるソフトウェアをwordにしたが、evernoteのなどを活用しても良い。多様化する情報収集源にどう対応していくかを考えを深めていきたい。

学習指導案（模擬授業）

こちらから(pdfファイル) → [学習指導案.pdf](#)

スライドショー (pdfファイル) → [スライド.pdf](#)

図 10 Wiki「roseburg@ウィキ」 感想・学習指導案ページ

<p>第 1 学年情報科学習指導案</p> <p>平成 24 年 7 月 12 日 (木) 3 校時 指導者</p> <p>1. 教科名 「社会と情報」(1) 情報の活用と表現 ア 情報とメディアの特徴</p> <p>2. 題材名 効果的な情報収集を考える</p> <p>3. 題材について</p> <p>今日、情報化が進むにつれて、情報メディアが、私たちの生活に欠かせないものになった。また、情報を手に入れる手段が多様化し、情報自体も、複雑化しているのが現状である。そこから、本当に自分にとって必要な情報を抽出し、理解することがなかなか難しいものになってしまったため、一人ひとりの情報の取捨選択能力の育成が必要であると考え、今回の授業では、「web サイト」、「twitter」、「掲示板」 「ブログ等」などの様々なサービスを利用して情報の収集を行い、最後に集約し、プレゼンテーションを用い相互に発表につなげていく。題材に利用する内容は、「水戸市のイベントについて」「水戸市のグルメ・ショッピング情報」「水戸市の防災対策」「水戸市内の道路交通情報または気象情報」と、身近な事例をあげた。調べていくうちにリアルタイム性が必要なものや、口コミで判断せざるを得ないもの、正確な情報が必要なものなど、情報取得する手段が、それぞれ向き不向きがあることを気づけて欲しいと設定した。</p> <p>4. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報取得手段についてのそれぞれの特徴と方法を理解することができる。 ○ 適切な方法で情報を収集し、わかりやすくまとめ説明することができる。 <p>5. 指導計画 (4 時間扱い)</p> <p>第 1 次 情報を取得手段について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・身近な情報取得技術にそれぞれ特徴について考えよう <p>第 2 次 インターネットを使って情報を収集して、まとめて発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・テーマにあった収集方法を利用し情報をまとめる (本時) ・・・調べた情報を、プレゼンテーションを使ってわかりやすくまとめる ・・・作成したプレゼンテーションを発表する。 	<p>6. 本時の指導 (第 2 時)</p> <p>(1) 目標 テーマにあった収集方法を利用し情報をまとめることができる</p> <p>(2) 教材 プロジェクト</p> <p>(3) 展開</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容・活動</th> <th>時間</th> <th>指導・計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 前回のおさらいをする ・ 方法と特徴</td> <td></td> <td>○ PC は起動をして、web アクセス可能な状態にしておく。</td> </tr> <tr> <td>2. 本時の学習内容を確認する。 テーマにあった収集方法を利用し情報をまとめよう</td> <td></td> <td>○ web サイト、twitter、ブログ、掲示板の特徴を整理させるため、確認を行う。</td> </tr> <tr> <td>3. テーマを決め、情報の収集を行う。 「水戸市のイベントについて」 「水戸市のグルメ・ショッピング情報」 「水戸市の防災対策」 「水戸市内の道路交通情報または気象情報」 から一つを選択し、調べたことを word の文章でまとめる。 <情報取得手段> ・ web サイト ・ ブログ等 ・ 消費者生成メディア (CGM) 系 ・ Twitter</td> <td></td> <td>○ テーマを選び、イベントなら最低 1 ヶ月先のイベントを、グルメ情報なら、最低 3 箇所の情報を調べる。防災対策なら具体的な情報をまとめること、道路交通情報、気象情報なら、水戸市内全部の情報を収集するようにさせる。 ○ 収集方法で困っている生徒がいた場合、隣の生徒と相談や、方法を案えてみるに助言をする。</td> </tr> <tr> <td>4. まとめ</td> <td></td> <td>○ 収集手段が各自に任せるが、何で調べたか word ファイルに必ず記載するようにさせる。 ○ 収集が終わった生徒は、プレゼンテーションの作成に入る。 ○ 収集手段は、調べたい内容に応じて自分で選択していく必要があることを伝える。また、次の時間に調べたことをプレゼンテーションで発表するため、終わっていない人は次回の授業までにまとめておくようにさせる。</td> </tr> </tbody> </table>	学習内容・活動	時間	指導・計画	1. 前回のおさらいをする ・ 方法と特徴		○ PC は起動をして、web アクセス可能な状態にしておく。	2. 本時の学習内容を確認する。 テーマにあった収集方法を利用し情報をまとめよう		○ web サイト、twitter、ブログ、掲示板の特徴を整理させるため、確認を行う。	3. テーマを決め、情報の収集を行う。 「水戸市のイベントについて」 「水戸市のグルメ・ショッピング情報」 「水戸市の防災対策」 「水戸市内の道路交通情報または気象情報」 から一つを選択し、調べたことを word の文章でまとめる。 <情報取得手段> ・ web サイト ・ ブログ等 ・ 消費者生成メディア (CGM) 系 ・ Twitter		○ テーマを選び、イベントなら最低 1 ヶ月先のイベントを、グルメ情報なら、最低 3 箇所の情報を調べる。防災対策なら具体的な情報をまとめること、道路交通情報、気象情報なら、水戸市内全部の情報を収集するようにさせる。 ○ 収集方法で困っている生徒がいた場合、隣の生徒と相談や、方法を案えてみるに助言をする。	4. まとめ		○ 収集手段が各自に任せるが、何で調べたか word ファイルに必ず記載するようにさせる。 ○ 収集が終わった生徒は、プレゼンテーションの作成に入る。 ○ 収集手段は、調べたい内容に応じて自分で選択していく必要があることを伝える。また、次の時間に調べたことをプレゼンテーションで発表するため、終わっていない人は次回の授業までにまとめておくようにさせる。
学習内容・活動	時間	指導・計画														
1. 前回のおさらいをする ・ 方法と特徴		○ PC は起動をして、web アクセス可能な状態にしておく。														
2. 本時の学習内容を確認する。 テーマにあった収集方法を利用し情報をまとめよう		○ web サイト、twitter、ブログ、掲示板の特徴を整理させるため、確認を行う。														
3. テーマを決め、情報の収集を行う。 「水戸市のイベントについて」 「水戸市のグルメ・ショッピング情報」 「水戸市の防災対策」 「水戸市内の道路交通情報または気象情報」 から一つを選択し、調べたことを word の文章でまとめる。 <情報取得手段> ・ web サイト ・ ブログ等 ・ 消費者生成メディア (CGM) 系 ・ Twitter		○ テーマを選び、イベントなら最低 1 ヶ月先のイベントを、グルメ情報なら、最低 3 箇所の情報を調べる。防災対策なら具体的な情報をまとめること、道路交通情報、気象情報なら、水戸市内全部の情報を収集するようにさせる。 ○ 収集方法で困っている生徒がいた場合、隣の生徒と相談や、方法を案えてみるに助言をする。														
4. まとめ		○ 収集手段が各自に任せるが、何で調べたか word ファイルに必ず記載するようにさせる。 ○ 収集が終わった生徒は、プレゼンテーションの作成に入る。 ○ 収集手段は、調べたい内容に応じて自分で選択していく必要があることを伝える。また、次の時間に調べたことをプレゼンテーションで発表するため、終わっていない人は次回の授業までにまとめておくようにさせる。														

図 11 Wiki「roseburg@ウィキ」 学習指導案

フォーラムページの具体的な内容としては、「質問なのですが、現在 HTML を学ぶメリットってなんだと思いますか?」「html を学ぶことは web ページの構造把握につながって、閲覧が容易になったり、リンク先のページがどのようなページであるのか見通しがついて危険回避にでもつながるんじゃないかと思っています。」というように模擬授業の内容に関する質問をし合ったり、「技術ってどんどん進化しているので、教育もそれに対応していかなくちゃいけないと思います。PC 関連は特に進化が早いので、未来をもっと見据えて行う教育が大事になってくると思います。」「PC があるのが当たり前、という生徒をお相手することになると思うので、すでに知っている分野であっても、発見と創造性にあふれた授業展開をしていけたらいいなあ、とうっすらですが目標を持つことができました。」など、これから教師になっていく上で心構えなどについても話し合われていた。

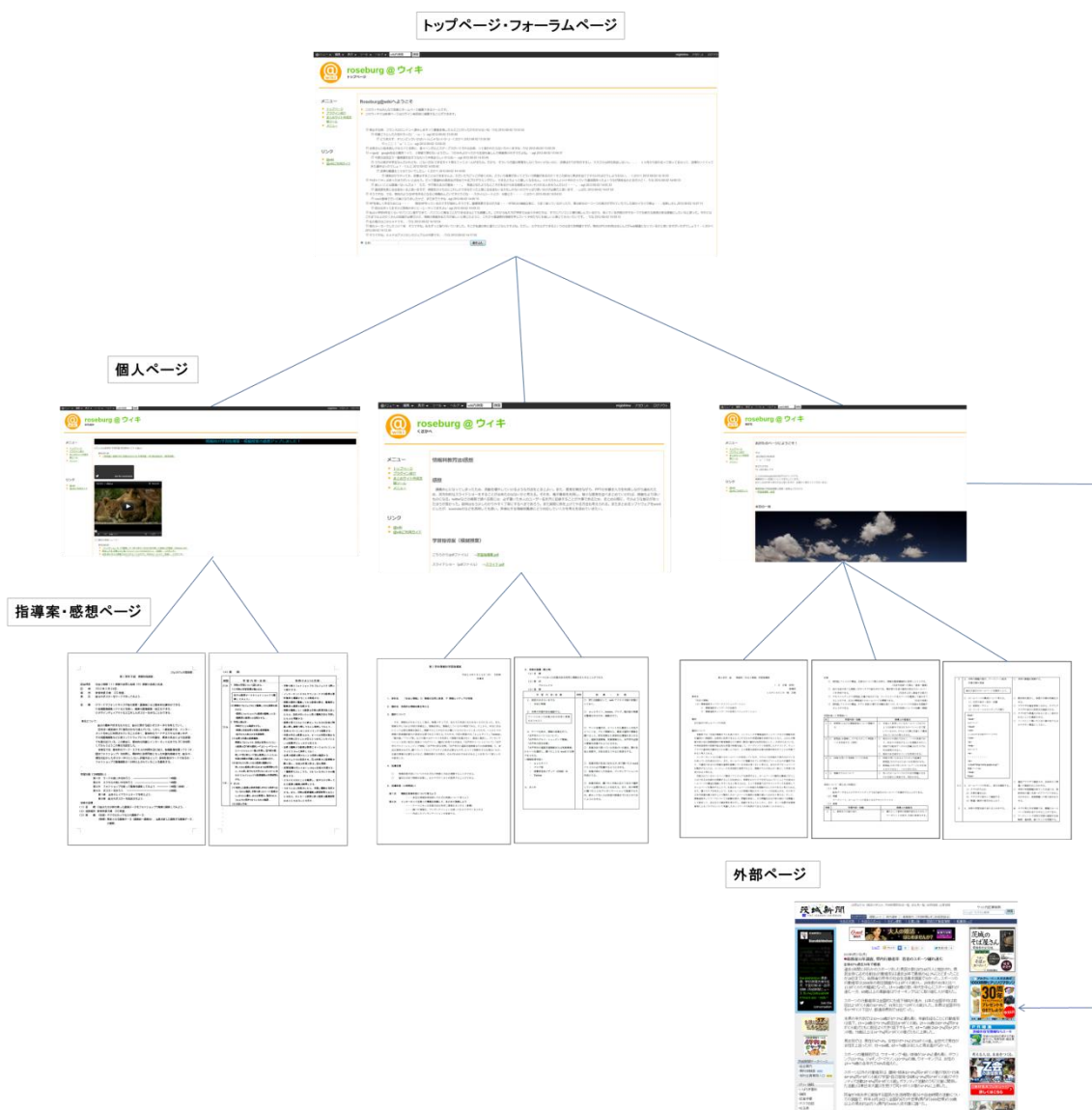


図 12 Wiki 「roseburg@ウイキ」 全体図

第6章 結果と評価

まず「rosecastle@ウィキ」の結果として特徴的なことは、まずフォーラムページには一切動画や静止画がなく、もし見せたい場合は自分の個人ページへのリンクを張り、見ることができるようにしているということである。一部分のモジュールの寄せ集めでは十分なプレゼンテーションを行うことができないと考えたためだと思われる。

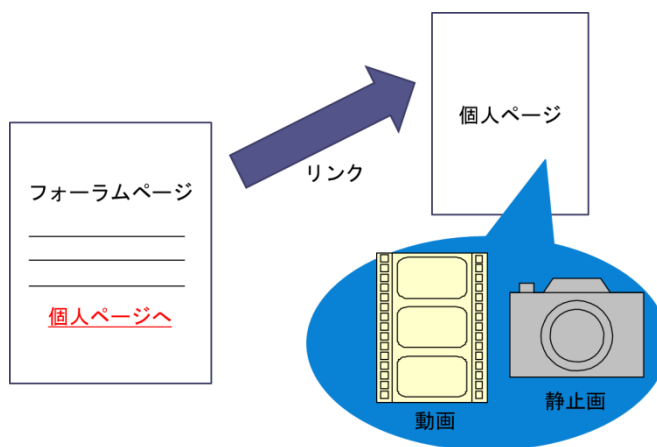


図13 フォーラムページと個人ページの関係

また今回は「災害時の危機管理と人材育成」というテーマでWiki作成を行ったが、茨城県はもちろん茨城大学も震災の被害にあったため、学生たちは切実な問題として取り組んだと考えられる。通常、ウェブページ作成の際はページのデザイン面などの派手さに傾きがちだが、今回は地味ではあるがカラフルさよりも内容を重視したページとなっている。

読者とのコミュニケーションを重視したもの	(1) 文章のみ	7
	(2) プラグインを利用したもの	9

表4 読者とのコミュニケーションを重視したもの

また表3を見ると分かるとおり、個人ページには文章の表現で双方向のコミュニケーションを意識したものやプラグインで作成したコメント欄もあった。

そして個人のWikiページから重要だと思う部分をフォーラムページに持ってきて載せて共有するのだが、本実践の課題としては、Wikiのコメント欄には書き込んだ文章の略歴が残りますが書き込みが一切ないことから、授業時間数の関係でWikiページを作成するだけで精一杯で双方向のやり取りをするところまでいかなかったということが分かる。フォーラムページでも個人ページの重要な部分を載せるのみで、積極的な双方向のやり取りまで行うことができなかったといえる。フォーラムページで双方向のコミュニケーションをさらにとることができれば、よりよいプレゼンテーションの場となったと考える。

次に「roseburg@ウィキ」では、「rosecastle@ウィキ」ではあまり盛んに行われなかったフォーラムページでの交流を積極的に行うことができている。フォーラムページは各々が模擬授業をやった感想や情報科の教師となっていく上でどう考えているかを語り合う場となっていた。

また、こちらでは模擬授業をまず行いその内容をWikiに載せるという形でWiki作りを行っているため、内容が「rosecastle@ウィキ」だけにとどまらず模擬授業と繋がっていたり、情報科の授業の今後の話などにも広がっていった。お互いに指導案を見合っ、それについてコミュニケーションをし合う、この両方をできるのは他のツールでは不可能であり、Wikiでのみ可能である。

このようにWikiというツールは情報をまとめ、発信していくという点でとても有効なツールであることは間違いない。本研究でも明らかにしたように、教師教育にも有効な活用法であることが実証できた。今後、

さらに Wiki を用いて効果的な教師教育が行われることを期待したい。

注

- 1) IT用語辞典 e-Words 「Wiki【ウィキ】」(2012.7.17 閲覧)
<http://e-words.jp/w/Wiki.html>
- 2) 出典 URL における「ウィキ」の表記を「Wiki」に置き換えた。
Wikipedia 「Wiki」(2012.7.18 閲覧)
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%AD>
- 3) 木村勤, 本田敏明. 2009. 「WBLE (Web Based Learning Ecology) による学習効果について」
『第 25 回全国大会講演論文集』 pp. 873-874 (教育工学会)
- 4) 木村勤, 本田敏明. 「WBLE (Web Based Learning Ecology) による学習効果について」『第
35 回全国大会講演論文集 (CD)』 B-08 (日本教育工学振興会)
- 5) IT用語辞典 e-Words 「Blog【ブログ】」(2012.7.18 閲覧)
<http://e-words.jp/w/Blog.html>
- 6) IT用語辞典 e-Words 「SNS【Social Networking Service】」(2012.7.19 閲覧)
<http://e-words.jp/w/SNS.html>
- 7) ITmedia Biz.ID「ブログ、SNS の次は?—Wiki のビジネス利用始まる」(2012.7.19 閲覧)
<http://bizmakoto.jp/bizid/articles/0704/11/news112.html>
- 8) slideshare 「A Social Media Map v1」 Donald H Taylor 2009 (2012.7.19 閲覧)
<http://www.slideshare.net/DonaldHTaylor/a-social-media-map>